

製品名: MIF ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13901**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | 12kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | MIF MIF; GLIF; MMIF; Macrophage migration inhibitory factor; MIF; Glycosylation-inhibiting factor; GIF; L-dopachrome isomerase; L-dopachrome tautomerase; Phenylpyruvate tautomerase |
| 別名 | |
| 遺伝子 ID | 4282.0 |
| SwissProt ID | P14174 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト MIF 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 25-74 |

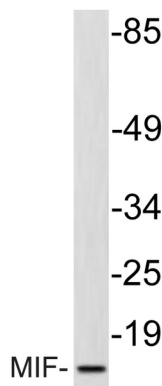
背景

この遺伝子は、細胞性免疫、免疫調節、および炎症に関与するリンホカインをコードしています。グルココルチコイドの抗炎症作用を抑制することで、宿主防御におけるマクロファージ機能の調節に役割を果たしています。このリンホカインと JAB1 タンパク質は、末梢細胞膜近傍の細胞質で複合体を形成し、インテグリンシグナル伝達経路における追加的な役割を示唆している可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: ケトフェニルピルビン酸 = エノールフェニルピルビン酸、疾患: MIF の遺伝的変異は、全身性若年性関節リウマチ [MIM:604302] の感受性と関連しています。全身性若年性関節リウマチは、重篤で衰弱性の関節外症状を呈し、時に致命的な合併症を伴う若年性慢性関節リウマチです。薬物治療にもかかわらず、多くの小児では早期の関節破壊が起こり、外科的置換が必要となる。機能: 炎症部位における MIF の発現は、このメディエーターが宿主防御におけるマクロファージ機能の調節に役割を果たしていることを示唆している。また、フェニルピルビン酸トートメラーゼとしても作用する。類似性: MIF ファミリーに属する。サブユニット: ホモ三量体。COPS5 および BNIPL と相互作用する。

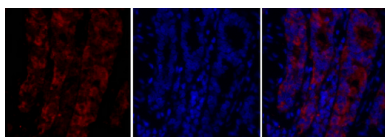
研究分野

チロシン代謝;フェニルアラニン代謝

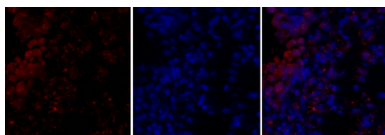
画像データ



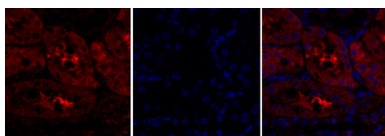
MIF 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウエスタン プロット分析。



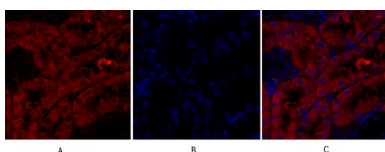
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, MIF ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



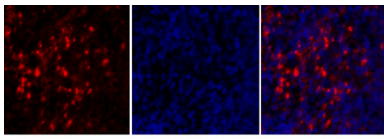
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, MIF ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



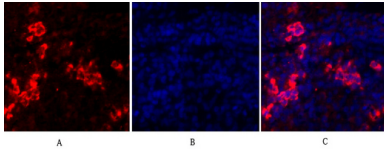
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, MIF ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



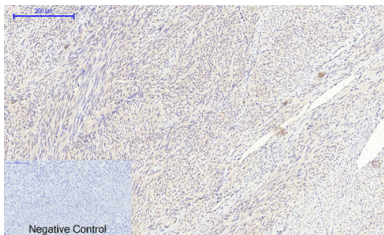
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, MIF ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



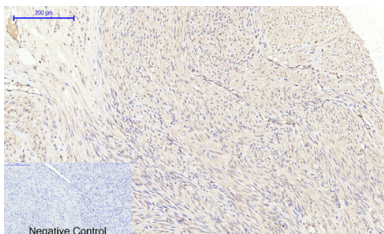
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, MIF ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, MIF ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. MIF ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. MIF ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。